

教育プログラムの概要及び採択理由

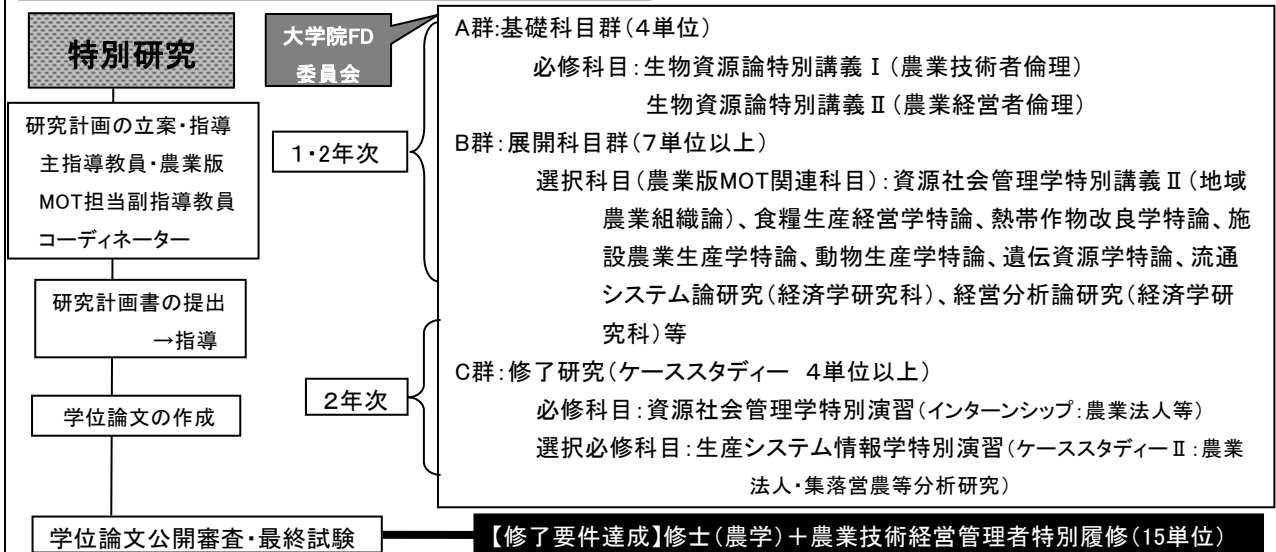
機 関 名	佐 賀 大 学	申 請 分 野 (系)	理 工 農 系
教育プログラムの名称	高度な農業技術経営管理者の育成プログラム		
主たる研究科・専攻名	農学研究科 修士課程		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者)野 瀬 昭 博		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>【本教育プログラム申請の社会的背景】 経済のグローバル化の下で、新興国を中心に食料需給が逼迫し、世界的な食糧危機が現実味を帯びてきた。こうした背景の下で、安心・安全な食料の安定供給に向けた農業構造改革の推進が迫られている中、応用農学の高度に科学的な知識と技術をもって、地域農業の生産基盤を継承し、その持続的かつ効率的な利用を図り、地域農業の維持と発展に貢献できる人材、さらにはこれを将来のビジネスチャンスとし、農業経営と農村地域の革新を担うリーダー（真の企業家）としての素養を備えた農業分野における高度な専門職業人の育成に対する社会的ニーズが強まっている。このような背景を踏まえ、中・北部九州及びアジアの諸地域における地域農業とアグリビジネスの中核となる高度な専門職業人を育成することが求められている。</p> <p>【本教育プログラムの目的と想定される教育効果】 本教育プログラムは、佐賀平野に立地する本学の特性－国内屈指の水田農業地帯であり、米麦二毛作による普通作農業の生産力発展に寄与してきた成果－を活かし、これまで深化させてきた本学農学専門教育の有機的連携と研究科横断的な教育カリキュラムの編成を図り、主として修士課程学生を対象に、変化する社会情勢に柔軟に対応でき、地域農業生産と農村の振興に向けてリーダーシップを発揮する農業のプロフェッショナルの育成を目指す。ここでいう農業のプロフェッショナルとは、高度な専門職業人としての高い倫理性と社会的使命感を持ち、国際的視野を踏まえて、農業経営の技術的課題とビジネス環境に関する情報を不断に収集・分析し、戦略的意思決定を行い、自己の経営目標達成のために農業経営現場での一連の管理過程を効率的に遂行する知識と実践力を兼ね備えた人材である。</p> <p>こうした人材育成の目的に対して、これまでの大学院教育（専攻）では、既に確立された技巧的・専門的技能を習得させることに重点が置かれてきた。しかし、今後育成しようとする人材は、先端的農業技術についての知識とその応用力を有し、かつ各自の経営目標の達成に向けて自己を管理し、周辺環境との調整を図る農業経営の実践力を持つ人材であり、従前の専攻の教育では必ずしもカバーできなかった領域である。この反省を踏まえ、本教育プログラムは、学生が自ら学ぶことを基本に、これまでの農学分野にはなかった経営大学院等で実践されている新しい教育メソッド(ケースメソッド等)の農業経営版を導入する。こうした実践的教育のプログラムは、特に市場経済化の進展によって、私経済化の著しいアジア諸地域の農業の持続的発展や地域経済の開発について研究する留学生に対しても、地域産業の中核となる人材育成という点で教育効果が発揮される。</p> <p>【本教育プログラムのカリキュラムと履修計画】 (1) 農業分野における高度な専門職業人としての高い倫理性と社会的使命感を涵養するため、1年次前期に〔A群:農業技術経営管理学(農業版MOT)基礎科目:農業技術者及び経営者としての倫理と企業家マインド、地域農業や現代農村社会の実際を科学的に認識する能力を身につける授業科目群〕を履修する。(2) 農業経営における内外の技術的課題とビジネス環境に関する情報を収集・分析し、課題解決に導くための専門知識と研究能力を涵養するため、1年次後期に〔B群:農業技術経営管理学(農業版MOT)展開科目:応用農学と経営科学、及び関連領域の学問的知見を統合した科学的方法の習得と思考能力を高める授業科目群〕を履修する。(3) 農業・企業経営の現場における技術・経営上の問題本質の把握、戦略的な解決方策の策定と実行、結果の評価等、一連の管理過程を遂行する能力を涵養するため、2年次に〔C群:農業技術経営管理学(農業版MOT)修了研究科目:マネジメントサイクルの実際を主としてケーススタディーによって学生が自主的に学ぶ授業科目群〕を履修する。</p> <p>【教育研究指導及びプログラム実施の管理体制】 (1) 上記の履修計画では、学生の適性と入学時の動機を勘案の上、複数指導教員による研究指導計画を策定し、それに基づいて指導教員は学生の履修及び研究状況を適時モニターし、適切な助言指導を与える。(2) 地域社会・産業界との連携と教育成果の実践性を担保するために、実務経験者や幅広い分野の経営者等を講師として招聘し、特別講義や演習の内容を充実させる。(3) 教育成果の評価については、本研究科における従来の方法に加えて、学外実務者や農業関係者等による外部評価を導入する。</p> <p>【本プログラム実践環境の整備状況】 本研究科では、これまで独自に実施してきた農業版MOT講演会や短期集中講座、佐賀県他との産学官包括連携協定における事業の推進等を通じて本教育プログラムに対する社会的ニーズを十分に把握してきた。また、全学及び研究科内でのFD活動を通じて本プログラムの実施運営に関して、大学法人と農学研究科及び経済学研究科並びに所属教員間における連携構築が完了している。また、平成22年度に農学研究科を改組し、現行の2専攻を生物資源科学専攻(高度な専門職業人の養成)の1専攻・5つの主コース制に再編し、本教育プログラムを「農業技術経営管理学」の副コースとして、経済学研究科との連携によるクロス履修制による特別教育プログラムとして推進する。</p>			

佐賀大学: 高度な農業技術経営管理者の育成プログラム

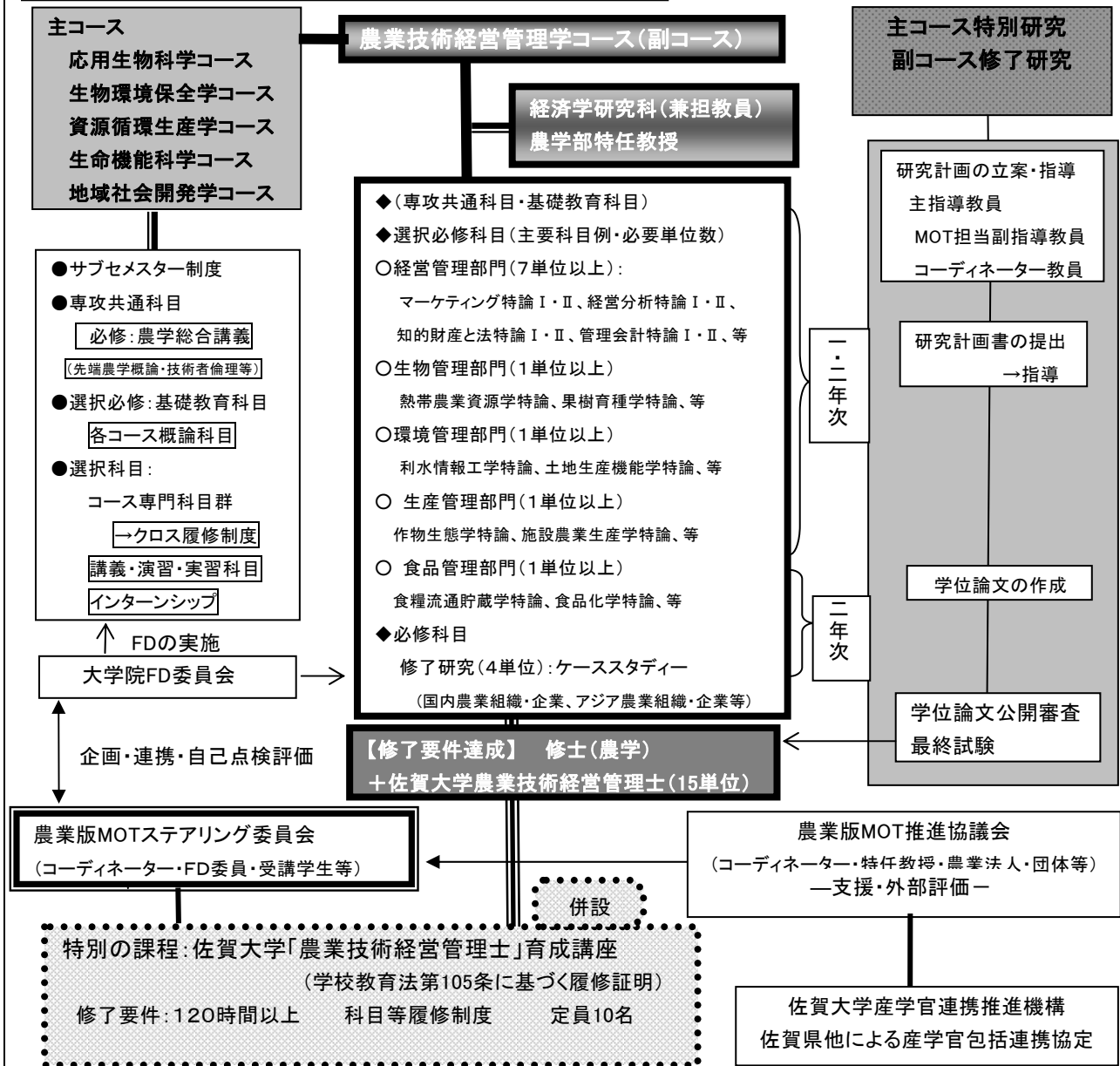
履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

高度な農業技術経営管理者の育成プログラム<履修モデル>

平成21年度 生物生産学専攻・応用生物科学専攻



平成22年度以降<大学院改組後> 生物資源科学専攻



佐賀大学: 高度な農業技術経営管理者の育成プログラム

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、社会のニーズに対応した人材養成目的が掲げられており、それに沿った教育課程の編成、学生に対する修学支援、教員のFDなどに積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。

教育プログラムについては、「農業分野における高度技術の管理と応用の手法（MOT）を体系的に修得し、現場での諸問題解決に貢献できる高度専門職業人の養成」を目的として、既存の専門教育との相乗的な効果を具現化するため、副コース（農業技術経営管理学コース）として、ユニークな農業版MOT教育プログラムが計画されている。特に、農業技術経営管理学の基礎科目、展開科目、修了研究科目を設定し、経済学研究科の教員、学外の実務経験者も授業を担当するなど、実施体制が具体的に計画されている点は高く評価できる。また、大学全体の中での位置づけも明確にされており、学内外の連携体制の整備も進められていることから、実現性、実効性が期待できる。ただし、国際性を養うための取組については、より具体的な検討が望まれる。